

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0272501412
法人名	社会福祉法人 もみじ会
事業所名	グループホームにこにこプラザ六戸
所在地	上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢54-767 (電話) 0176-70-1200
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月9日

【情報提供票より】(平成 21年9月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.25人

(2)建物概要

建物構造	薄型軽量形鋼	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	2,700 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(9月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	六戸国民健康保険病院、八戸西病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が地域住民の一人として、これまでの生活を継続できるよう町内会に加入して行事に参加したり、職員が町内の清掃活動に参加するなど、地域との交流を積極的に図っている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、地域の小中学生等の訪問を受け入れている。さらに、併設のデイサービスと共催で住民向けに介護講習会を開催するなど、地域貢献にも取り組んでいる。
 訪問看護ステーションとの契約により医療連携体制を整えており、重度化や終末期のケアに対応している。入居時に、利用者や家族からターミナルケアに関する意向を確認しており、主治医や訪問看護ステーションと話し合いながらケアする体制となっている。
 高齢者虐待防止マニュアルや感染症に関するマニュアルを整備しており、全職員が理解を深め、利用者が安心して生活できるような支援を心がけている。

【特に改善が求められる点】

特になし。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では特に改善課題の指摘はなかったが、常に利用者により良いサービスを提供しようと前向きな姿勢で取り組んでおり、職員会議で外部評価結果について話し合う等の取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価のねらいや活用方法を理解し、全職員に周知しており、自己評価を作成する際は全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は行政職員、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民、民生委員等で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの運営状況や自己評価・外部評価結果等について報告を行うほか、災害時の夜間避難訓練の実施やインフルエンザへの対応策などを話し合い、会議での意見を今後の実践に取り入れている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>2ヶ月に1回程度発行している広報紙を家族に配布したり、家族訪問時等を利用して日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、玄関に意見箱を設置するなど、家族が気軽に意見を述べやすい環境を整えている。ホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、意見等が出された時は苦情処理シートに記入して会議で話し合うなど、改善に向けた取り組みを行う体制となっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、職員が町内の清掃活動に参加したり、利用者が町内のイベントに参加するなど、地域との関わりを保てるよう取り組んでいる。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、地域の小中学生等の訪問を受け入れている。併設のデイサービスと共催で、住民向けに介護講習会を開催するなど、地域貢献にも取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、職員が町内の清掃活動に参加したり、利用者が町内のイベントに参加するなど、地域との関わりを保てるよう取り組んでいる。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、地域の小中学生等の訪問を受け入れている。併設のデイサービスと共催で、住民向けに介護講習会を開催するなど、地域貢献にも取り組んでいる。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域密着型のサービスの役割を踏まえ、「私たちは、個別性を重視した心地よい生活環境を提供し、安心と尊厳あるケアを目指します。」という理念を掲げており、長年暮らした地域の中でその人らしく暮らせるように、利用者の生活を重視した理念となっている。理念を事務室や玄関に掲示したり、職員会議や日常業務で確認し合うなど、職員間での共有を図って日々のケアに取り組んでいる。</p> <p>職員の経験年数に応じた年間研修計画を作成しており、勤務体制に配慮した上で職員を派遣している。受講後は報告書を作成し、職員間で共有を図り、スキルアップにつなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付時から利用者や家族の希望に耳を傾け、安心して利用開始できるよう配慮している。入居後は、家族に対してホーム行事への参加を呼びかけるなど、利用者や家族がホームに馴染みやすい雰囲気を作っている。</p> <p>食事の支度や後片付けなどを一緒に行ったり、畑仕事を通して収穫の喜びを共に味わっている。また、生活歴や職歴に応じた役割を担ってもらうなど、利用者や職員が互いに支え合う関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族からの聞き取りにより、一人ひとりの生活歴を把握するほか、顔の表情や行動などから利用者の意向を把握するよう努めている。利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、行きつけの美容院への送迎を行うほか、家族が通院に同行できない場合は付き添いの代行も行っている。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援したり、重度化や終末期のケアに対応するなど、安心してホームで暮らせる体制を整えている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者が思い思いにゆったりと過ごせるよう、一人ひとりの体調や表情を観察しながらレクリエーションや作業を促したり、その日の天気や気分によって柔軟に対応するなどの取り組みが行われている。</p> <p>共用スペースに畳や家庭的な家具を配置するほか、食卓に花を飾ったり、ホーム内に利用者の作品や季節を感じさせる装飾を施すなど、居心地よく過ごせる工夫を行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型のサービスの役割を理解している。地域に根ざした入居者の生活を重視し、「個別性の重視」、「心地よい生活環境の提供」、「安心と尊厳あるケア」を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室や玄関等に理念を掲示したり、職員会議や日常業務で確認し合うなどして共有化を図り、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、職員が町内の清掃活動等に参加するなど、地域との交流を積極的に図っている。また、利用者が町内のイベントに参加するなどの取り組みも行っている。入居者のプライバシーに配慮した上で、地域の小中学生等の訪問を受け入れたり、併設のデイサービスの共催で、住民向けに介護講習会を開催するなど、地域貢献にも取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらいや活用方法を理解し、全職員に周知している。自己評価を作成する際は全職員で取り組むほか、外部評価の結果を受けて職員会議で話し合う等、ケアサービスの向上に繋げている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政職員、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民、民生委員等で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況や自己評価・外部評価結果等について報告を行って委員から意見をj得るなど、ケアサービスの向上を図っている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットや広報誌を配布したり、自己評価や外部評価の結果を報告し、ホームの現状をしている。また、運営推進会議を通じて現場の実態や課題について協議するなど、行政との連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護に関する勉強会を行っており、管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めている。また、現在、日常生活自立支援事業を利用している方の支援を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成するほか、職員研修で虐待について理解を深めている。また、職員は虐待を発見した場合の対応や報告の流れについて理解している。管理者は、職員が相談しやすい雰囲気づくりを行うなど、虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はホームの理念や方針について説明するなど、利用者や家族の不安を和らげている。また、契約改訂時にも利用者や家族に説明し、同意を得ている。退居時には、退居先への情報提供などを行うことにより、スムーズに移行できるよう支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回程度、併設デイサービスと共同で広報紙を発行し、家族に配布しており、利用者の日々の暮らしぶりなどを報告している。また、家族訪問時には受診状況や健康状態等を報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議に家族が参加するなど、家族が気軽に意見を述べやすい環境を整えている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示し、契約時などに説明している。家族から意見等が出された時は苦情処理シートに記入して会議で話し合うなど、改善に向けた取り組みを行う体制となっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員異動による利用者への影響を理解しており、職員の異動は必要最小限に抑えている。異動や新しい職員を配置する際は、利用者に説明するとともに、職員間での十分な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた年間研修計画を作成しており、勤務体制に配慮した上で外部研修を受講し、スキルアップを図っている。外部研修受講後は報告書を作成するとともに、研修内容について職員間で共有を図っている。また、資格取得もバックアップしている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して他事業所との交流を図ったり、地域の医療福祉関係者の連絡会に参加して他職種との勉強会や交流会を行う等、職員の資質向上やサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付時から利用者や家族の希望に耳を傾け、安心してホームでの生活を開始できるよう配慮している。また、入居後は家族に対してホームの行事へ参加を呼びかけるなど、利用者と家族がホームに馴染みやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や後片付けなどを一緒に行ったり、畑仕事を通して収穫の喜びを共に味わうほか、生活歴や職歴に応じた役割を担ってもらうなど、利用者と職員が互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの聞き取りによって一人ひとりの生活歴を把握し、詳細なアセスメントを行うことで職員間で情報を共有している。また、日々の会話や顔の表情、行動などから利用者の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者や家族からの聞き取りを行って一人ひとりの意向や課題を把握している。また、職員の気づきも取り入れて、利用者本位の介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示しており、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状態等に変化が生じた時は、家族と話し合っ随時見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて買い物やドライブに出かけたり、行きつけの美容院への送迎を行うほか、家族が通院に同行できない場合は付き添いの代行を行うなどの支援を行っている。また、訪問看護ステーションとの契約により、医療連携体制を整え、利用者の健康管理に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、かかりつけ医との情報交換を行うなど、相談しやすい関係を築いている。受診結果は面会時などを通じて家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応している。入居時にターミナルケアに関する利用者や家族の意向を書面で確認しており、一人ひとりの意向にそった支援を行っている。また、ターミナルを迎えた利用者には、主治医や訪問看護ステーションと連携して支援する体制が整えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の言動を否定することなく、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわない声かけや対応に配慮している。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人ファイルの持ち出しを禁止し、事務室内での閲覧に留めるなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、一人ひとりが思い思いにゆったりと過ごせるよう支援している。また、利用者の体調や表情を観察し、その日の状態によってレクリエーションや作業を促さないなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を基に献立を作成している。また、利用者の状況に応じて食材の買い物や食事の支度、後片付けなどを手伝ってもらっている。職員は利用者と一緒にテーブルに着き、会話を楽しみ、食べこぼし等へのサポートを行いながら食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握しており、希望に応じて入浴できるように支援している。また、入浴は一人ずつ行い、浴室前にはパーテーションを設置するなど、羞恥心に配慮している。入浴を拒否する利用者には、時間を置いて声がけしたり、清拭や足浴を行うなどの対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なことを把握しており、食事の準備などの役割を担ってもらっている。また、利用者からのリクエストドライブに応じたり、野外パーティーを行うなど、気晴らしの支援も行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、ホーム周辺の散歩や図書館、スーパーに出かけるなど、日常的に外出する機会を設けている。外出時は利用者の身体状況等に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は身体拘束の弊害について理解しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、理由等を記録したり家族に説明して同意を得る体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は日中施錠しておらず、自由に入出入りすることができる。玄関にはセンサーを設置しており、利用者の外出傾向を察知した場合は職員が付き添っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼夜を想定した避難訓練を行うとともに、運営会議で災害時の支援について地域住民の協力を要請している。また、災害発生時の飲料水や食品に関しては、併設デイサービスのストックで対応する体制をとっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスに配慮した食事となっている。カロリーは概ね1日2,000キロカロリー程度で、摂取量を記録している。また、水分摂取量は概ね1,000ccを目安にし、摂取量を記録している。食事制限が必要な利用者には、医師の指示のもとで食事提供を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成して職員研修を行い、理解を深めている。また、関係機関から感染症に関する情報収集を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに畳や家庭的な家具を配置し、くつろげる空間となっている。また、食卓に花を飾ったり、ホーム内に利用者の作品や季節感を感じさせる装飾を施すなどの工夫も行われている。職員が立てる物音やテレビ等の音量も適切である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇や冷蔵庫を持ち込んでもらったり、利用者の好みに応じた装飾を施すなど、一人ひとりが居心地よく過ごせる環境となっている。		

※ は、重点項目。